

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】令和 1 年 10 月 3 日 (2019.10.3)

【公開番号】特開 2018-181612 (P2018-181612A)

【公開日】平成 30 年 11 月 15 日 (2018.11.15)

【年通号数】公開・登録公報 2018-044

【出願番号】特願 2017-79809 (P2017-79809)

【国際特許分類】

H 0 1 R 13/193 (2006.01)

H 0 1 R 24/20 (2011.01)

H 0 1 R 13/11 (2006.01)

【F I】

H 0 1 R 13/193

H 0 1 R 24/20

H 0 1 R 13/11 A

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 8 月 22 日 (2019.8.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 0】

また、前記増圧板の底面は、後方に向けてテーパ状をなしており、前記接圧付与部は、前記雄端子に接触する接点部と、前記接点部から前方に向けて上方に傾斜する前側傾斜部とを有しており、前記増圧板の前記底面が前記接圧付与部の前記前側傾斜部の先端部に摺動することで、前記接圧付与部を前記底壁側に変位させることとしても良い。

このような構成にすると、増圧板の底面のテーパ状の部分が接圧付与部の前側傾斜部の先端に当たって接圧付与部を底壁側に押し下げること、接点部を底壁側に変位させて雄端子に付与する接圧を高い状態にすることができる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 8】

雌側本体部 1 2 の底壁 2 1 には、雄側本体部 5 2 と接触する底壁接点部 2 2 が設けられている。底壁接点部 2 2 は、図 1 に示すように、3 つの接点部 1 8 のうち両端の接点部 1 8 に対応する位置に、底壁 2 1 から上方に突出する形で、ビード状に形成され、図 4 に示すように、雄側本体部 5 2 と接触する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 7】

< 実施形態 2 >

次に、実施形態 1 の増圧板 3 0 の形状を変更した実施形態 2 について、図 9 から図 1 6

を参照して説明する。

図 1 1 に示すように、実施形態 2 の増圧板 1 3 0 は、挿入方向に向けて先細りとなるように、テーパ状に加工されたテーパ部 1 3 1 を備えている。図 1 4 に示すように、増圧板 1 3 0 は、接圧付与部 1 1 6 が底壁 1 2 1 側に変位しない位置まで、雌側本体部 1 1 2 の内部に挿入されている。その他の部位については、実施形態 1 と同様のため、説明を省略する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 9】

以上のように実施形態 2 によれば、増圧板 1 3 0 のテーパ部 1 3 1 が接圧付与部 1 1 6 の前側傾斜部 1 2 0 の先端に当たって接圧付与部 1 1 6 を底壁 1 2 1 側に押し下げること、接点部 1 1 8 を底壁 1 2 1 側に変位させて雄端子 1 5 0 に付与する接圧を高い状態にすることができる。